

年間行事

祝祭日と伝統行事

(*印の日付はその年によって変わります)

日付	祝祭日	デンマーク語
1/1	元旦	Nytårsdag
3月*	洗足木曜日	Skærtorsdag
3月*	聖金曜日	Langfredag
4月*	復活祭	Påskedag
4月*	復活祭月曜日	2.påskedag
4月*	祈祷日	St.Bededag
5月*	昇天祭	Kristi-himmelfartsdag
5月*	聖霊降臨祭	Pinsedag
5月*	ウィットマンデー	2.pinsedag
6/5	憲法記念日	Grundlovsdag
12/24	クリスマスイブ	Juleaften
12/25	クリスマス	Juledag
12/26	ボクシングデー	2. juledag

(1) 1月1日 元旦 (Nytårsdag)

[休日]

日本のようなお正月はありません。年頭の誓いとして、「たばこを止める」とか「早起き」という誓いを立てる人もいます。

正午に放映される恒例のウイーン年頭コンサートを見て、午後はのんびり散歩を楽しむ人が多いようです。翌日からは平常どおりの生活が待っています。

(2) 2月下旬 ファステラウン (Fastelavn)

語源：断食の前夜。古い北欧の伝統によると、春を迎える祭りの前に断食をして、その断食の前に人々は大いにご馳走を食べたそうです。春は、新芽が出る時、すなわち収穫および子孫の繁栄を暗示する意味もあります。

学校、保育園その他の子どもの集まる施設では仮装カーニバルが催され、吊るされた樽を参加者が交代で叩き、最初に樽を叩き壊したものが猫の王 (kattekonge)、猫の女王 (kattedronning) と呼ばれ、その夜のパーティーのスターとなります。子供達には、ファステラウンスボレと呼ばれる丸いケーキパンが配られます。

助言：仮装した子供達が「お菓子をくれないと悪さをするぞ」と歌いながら、近所の家々を飴や小銭の入った缶を振りながら訪問して歩くので、飴や小銭を用意しておくといいでしょう。

仮装パーティーに招かれたら、恥ずかしがらず遊びっ気一杯の仮装をして行きましょう。

(3) 復活祭 [木曜日から月曜日まで連休]

洗足木曜日 (Skærtorsdag)

聖金曜日 (Langfredag)

復活祭 (Påskesøndag)

復活祭月曜日 (1. Påskedag)

語源：イエスキリストが十字架に掛けられる前日からその 2 日後の復活を記念、祝います。また北欧の長い冬から解き放されて、早春を迎え祝う伝統的な意味もあります。

新しい命の象徴として、卵、ヒヨコ、子羊、春の象徴の鮮やかな黄水仙などを色々な形で飾りあるいは食卓にのせます。ウサギ、卵のチョコレートなどは現在の商魂逞しい業者が生み出したもので、本来の伝統とは関係ありません。

友人、家族が集まり、復活祭の昼食パーティーを持ち、卵に色をつけたり、卵転がしをして楽しく早春の一時を過ごします。

助言：子供のいる家庭に招かれたらウサギ、卵のチョコレート、その他、春の花のプレゼントが喜ばれます。

デンマーク語で「長い金曜日」といわれる金曜日は、閉鎖している娯楽施設、映画館もあります。

子供同士の間、または家族内で **gækkebrev** というマツユキソウの押し花を添えたり、切り紙になったりしている手紙を送りあいます。名前をアルファベットの数ぶん点で書き（「・・・より」など）受取り手が送り主が誰かを当てます。正解だとチョコレートなどのお菓子がもらえます。子供のある方は、ぜひ手紙作りやお菓子のパッキングを一緒にしてあげましょう。子供にとっては楽しく、また大切な行事です。幼稚園などで作って持ってかえってきたり、郵送したりすることもあります。一緒に楽しんでください。

(4) 5月または9月 堅信式 (Konfirmation)

[直系家族のみ休日が取れる]

普通 5月の祭日に行われますが、各教会によって異なります。

その年 14歳になる子供達が教会で受ける式で、幼児洗礼を受けている子供達が改めて、キリスト教の信仰を誓い直す目的があります。

その前年の 9月 1日から、その学校の属する教会の牧師の所にクラスで準備教育を受けに行きます。この式を受けるか否かはその子の自由です。

普通午前中、白服の正装をした子供達は家族の属する教会で式を挙げ、午後からパーティーに入ります。式を受けても受けなくても、一応この時から大人と見なされる日本の成人式のようなこの行事には親族、その子に非常に親しい家族の友人などが招待され、盛大なパーティーが開かれ、プレゼントも豪華な物が渡されます。近年、このパーティーを止め、家族で外国旅行に行くのも人気があるようです。

パーティーの服装はフォーマルなスーツにドレスが普通です。プレゼントは本人の希望を家族から聞くと良いでしょう。

(5) 5月1日 メーデー (Arbejdernes dag)

ヨーロッパでは古くは農村の祭り「5月祭」がありましたが、1886年にアメリカで行われた労働時間 8時間を要求する示威運動が起源となり、日本と同様労働者の団結を示す祭典となっています。休日ではありませんが、かなりの企業・公共団体などが休日あるいは半休日の扱いをしています。

(6) 初夏の連休

昇天祭 (Kristihimmelfartsdag)

復活祭から数えて 40日目にあたる木曜日

聖霊降臨祭 (Pinsedag)

復活祭の後、第 7週間目の日曜日で、それに続く月曜日も休日となります。

(7) 6月5日 憲法記念

(Grundlovsdag) [休日/半休日]

1849年同日、立法機関の確立及び、国民の基本的人権と義務を謳うデンマーク憲法が確立されました。

銀行、会社は休日を取りますが、商店街は午後から閉店となります。

(8) 6月23日 夏至祭前夜祭 (Sankt Hansaften)

一年で一番昼の長い日を祝う夏の祭り。各所で焚火を焚き、歌を歌って陽気に祝います。また、この夜は魔女達がドイツのブロック山に集まるといわれ、焚火の上に魔女の人形を乗せて焼きはらいます。これは中世時代の魔女狩の名残でもあり、そのため、各種の婦人団体がこの焚火に抗議しているのも事実です。

助言：パーティーは大体外で夜中過ぎまで行われることが多いので、服装は指定のない限りカジュアルで、冷えない支度を用意していくとよいでしょう。

(9) 6月末 高校卒業 (Translokation)

語源：ラテン語で昇級という意味。

デンマークの大学は入学試験がありません。高校の卒業試験の平均点が大学入学の決め手となります。ですから晴れて卒業試験を終えて、学生帽を被る資格を得るという事は学生にとって人生の一つの節目となります。

学校で卒業式を終えると、花や風船で華やかに飾った馬車やトラック（田舎ではトラクター）に各クラスで乗り込み、町中を走り回ります。各学生の家を訪れ、飲食物の振る舞いを受けます。翌日は正装の晩餐を教師と共に取るのが普通です。

町で見かけたらクラクションを鳴らして祝う慣習もあるようです。

